

1. SL 労働者騒動

《 既報 》 ※下記は前回送信済みの情報を簡略化し再録したものである。次段に検証済み《真相》を記す。

①ステミンチェイ地区の SL 社で暴動が発生、警官隊の発砲により女性1人が死亡

11/12朝、ステミンチェイ地区にある SL 社の工場の前で、労働者たちが道路の閉鎖を行ないストライキを行っていた。そこに警備員が割れたビンや石などを投げつけたため 10 人が怪我をした。軽傷を負った労働者は病院に運ばれたり、自分で手当をしたりしていたという。ストライキに参加していた Yin Vanna さん。Vanna さんの話によると、警備員に向けて石やビンなどを投げ返す労働者達もいたようだ。また SL に勤める Lim Chandara 氏は、「労働者達を被害者として見なすのは間違いであり、彼らこそが襲撃者である」と主張し、「彼らは嘘をついています、パチンコをつかって工場内に石を投げ込み、2 人の警備員を怪我させました」とも言う。この SL 社の労働者たちのストライキは3か月間以上続いており、それにより負傷者がでたのは2回目である。先月のストライキでは、工場の警備のために雇われた警察が参加者に向かって発砲し、一人が重傷を負っている。SL ガーメントの警備を担当するのはガルード警備社だが、フン・セン首相の妹、フン・セン・ニー氏がオーナーだという。このため、SL ガーメント自体にフン・セン首相の家族が出資しているのでは、との噂もあるという。

11/12午前、SL 社の労働者たちは、フン・セン首相の自宅前に向けてデモ行進を計画しそれを実行しようとした。デモ行進は計画通りスタートし、ステミンチェイ地区のステミンチェイ橋付近で警官隊と衝突した。しばらく労働者と警官隊がにらみ合っていたが、工員の代表者などによる演説が行われ、大きな衝突もなく解散するかに見えた。しかしそこで突然、警官隊は放水車によるデモ隊鎮圧を開始したので、これに反発した一部のデモ隊参加者や地区住民の怒りがおさまらず、警察車両を破壊し放火した。その後、態勢を整えた警官隊は、催涙弾、ゴム弾、そして実弾による暴動の鎮圧を開始した。数に勝る警官隊の反撃に、デモ隊は抵抗を続けることができず解散。ステミンチェイ寺や道路脇の商店に隠れたデモ隊は、警官隊に探し出され逮捕・連行された。この警官隊との衝突騒ぎで、デモ隊とは無関係の女性1人が警官隊の発砲で死亡し、数人が怪我をした。

このステミンチェイ地区では、国民議会選挙投票日にも、一部の住民による暴動が発生しており、SL ガーメント社のデモ隊とは別の不満が政府・行政に対して溜まっていた。今回の SL ガーメント社のデモ隊は、フン・セン首相の自宅前への行進を目的としており、警官隊と衝突することは、本来、彼らの目的ではない。暴動にどの程度、SL ガーメント社のデモ隊が関わっていたのかはわかっていない。

《 真相 》



《SL 社前の道路封鎖状況》



《ステミンチェイ寺院内の弾痕跡》



- ・上記の情報は、ほぼ正しい。11/25現在、ステミンチェイ地区の SL 社前では、労働者がテントを張り、道路を完全に封鎖している。この状況がすでに3か月間、経過しているという。
- ・11/12朝、SL 社の労働者たちは、プノンペン市内のフン・セン首相前までデモ行進を行おうとしていた。SL 社からステミンチェイ橋までは徒歩で30分ほどかかる。ただしステミンチェイ橋を超えると市内に入り、フン・セン首相の自宅までは近い。警官隊は、デモ隊をこの橋の前でどうしても止める必要があった。11/21にここでデモ隊と警官隊が衝突したが、周辺の露店や商店の破壊や略奪はまったく起こっておらず、「暴動」というより「騒動」という表現が正しい。

- ・ステミンチェイ地区は、かつてプノンペン市内のゴミ捨て場であったこともあり、今でもゴミが散乱し、異臭がただよい、周辺は環境がきわめて悪い。一種のスラム街のようになっており、一般住民にも政府に不満を抱いている人が多く、前回の選挙でも、この地区では野党が勝利した。今回のデモにこの地区の住民の多くが便乗参加していたことは事実であるという。ただしその人数は不明。
- ・このステミンチェイ地区には、大型縫製工場が密集しており、労働環境の悪い工場で大勢の労働者が働いている。
- ・警官隊がデモ隊に発砲し、ステミンチェイ寺院前で、露店を営んでいた女性が流れ弾に当たって死亡した。デモ隊が橋のたもとのステミンチェイ寺院に逃げ込んだため、警官隊は寺院内になだれ込み、そこでも発砲し、警官隊の横暴から住民を助けようとする僧侶たちと衝突した。その僧侶の多くが拘束・連行された。寺院内の石碑には、そのときの弾痕跡が残っている。
- ・SL 社の労働者たちは、この3か月間、給料をもらっておらず、他の会社に臨時で勤めたりしているが、すでに限界に近いという。労働組合が介入し、解決のため交渉を繰り返しているが、いまだに妥結には至っていない。会社側はストライキをしている労働者に、その期間中の給料の半額を払う代わりに、労働組合を解散せよという条件を提示している。それに対し、労働者側は給料面の条件は呑むが、労働組合の解散要求は呑めない。また会社側に対して、会社の経営陣の一員であるカンボジア人管理者を辞めさせるように要求している。
- ・SL 社は中国系の企業で、6000人規模の巨大縫製工場である。GAP・リーバイス・H&M・ザラなど一流ブランドのジーンズを生産している。
- ・この企業の経営陣のカンボジア人管理者が、政府要人と密接な関係があり、そのカンボジア管理者のひごろの横暴な態度に SL 社の労働者が怒りを抱いているという。
- ・この SL 社から50mほど離れた所の道路際に、日本の縫製工場の看板が出ていたのでそこを訪ねてみると、道路から30mほど奥まった場所に立派な工場が建っていた。またその地域一帯は、そこがステミンチェイ地区とは思えないほど綺麗に整備されており、韓国系や中国系の縫製工場もあった。日系企業の門前で、写真を撮っていたら、かたわらで庭木の手入れをしていた労働者風の中年男性が、「なにか用事か」と聞いてきたので、「この日系の工場はいつごろから操業しているのか」と尋ねてみると、「1年前からだ。日本の下着の縫製工場だ」と言い、聞きもしないのに、「この工場はレンタルで、1㎡は月間1.5ドルだ」と言ってきた。不思議に思って、その男性の身分を聞いたところ、彼はこの一帯の地主であり、そこに建っている工場はすべて自分のものだという。そこには6工場があり、それぞれに3000㎡以上あるという。私が植木職人と間違えた男性は、大金持ちだったのである。私はびっくりして彼を見直したが、すぐ次の瞬間、「この地域一帯は30年前には、荒れ果て放棄され、その所有者が明確ではなかったわけであり、この男性はどのような方法でこの土地を手に入れたのだろうか」と思った。また SL 社の前でテントを張ってスト中の労働者たちと、この男性をダブらせ、カンボジアでも短期間で急激に貧富の格差が広がっていることを実感した。そんなことを考えながら、日系工場に掲げられていた日章旗や中国旗を見ていて、奇妙なことに気が付いた。中国旗が逆さまに掲げられていたのである。私はすぐにその男性に、「中国の旗が逆さまですよ。国際問題になるかもしれないから、早く直した方がよいですよ」とアドバイスした。



2. Wing Star Shoes 社の中2階崩落事故

《既報》 ※下記は5月のカンボジア短信の再録である。次段に検証済み《真相》を記す。

1. 5/16、アシックス社の仕事を請負っている靴工場 Wing Star Shoes 社で、中2階崩落事故発生 2名死亡

Kampong Speu 州 Kong Pisei 地区にある靴工場において、工場の中2階が崩れ2人が死亡するという事件が起こった。警察官など数百人が迅速に集まって、瓦礫の中から被災者を助け出す作業を行った。事故が起こったのはWing Star Shoes 社で、労働者たちがちょうど出勤し始めた朝の7時半頃に2階の床が崩れ落ちたようだ。Kampong Speu 州警察の Men Siborn 氏は、「これまでの情報では、労働者の2人が死亡し11人が負傷したとされています。11人のうち2人は病院で手当を受けすでに家に帰宅しております」と話した。Wing Star



Shoes 社はカンボジア縫製業協会に登録している会社で、日本の靴メーカー：アシックスの製品の生産を請負っていた。

《 真相 》

私はバングラデシュのビル崩壊の大惨事の後だけに、カンボジアのこの工場の天井崩落事故も、ビルの老朽化か、違法な増築を繰り返した結果だと思っていた。地元メディアの伝えるニュースは、その想像にぴったり合致するものであった。しかし実際には、この工場は、建築後1年を経っていない立派な工場であり、そこには8000人の労働者が勤務していた。敷地内は整然としており、とても天上崩落事故が起きたとは思えなかった。従業員さんに事情を聞いてみると、「崩落したのは、ビルの継ぎ目に当たるところで、本来、そこに荷物を積んではならないところだったが、出荷を控え徹夜作業をしており、翌朝までの予定で臨時に積んでいたものであり、まさに不注意だった。その後は、その部分は撤去された」と話してくれた。



この工場は、カンボジアでも最大級の工場であり、敷地は50ヘクタール。まだ拡大増築途中で、約2万人の工場にする予定だという。ただしここでも、この事故の1か月ほど前に、全従業員の賃上げストが起きたという。

3. またも工場で大量集団失神

《 メディア報道 》

11/21、King First Industrial 工場にて大量集団失神発生

11/21、カンダル州の King First Industrial 工場で、約 50 人の労働者が集団で失神する事件が発生した。この工場の Free Trade Union の代表である Khouth Touch 氏は、「女性工員の中に、その日の朝に腹痛や下痢を訴えていた子もいましたが、他の女子工員が倒れた光景を目にした工員がショックを受け、1人ずつ連続して倒れていきました」と話し、今後、労働省の担当部署によって詳細が調査されるはずであると伝えた。倒れた工員たちは近くの病院で治療を受け、他の工員は帰宅することを許された。会社の管理職の1人である Chea Houth 氏は、「工場内に悪臭はありませんでした。我々は労働者の朝食が問題ではないかと考えます。なぜなら彼らが工場に着いた時から問題はあったのですから」と話している。労働省からのコメントはまだ得られていない。

FTUによると、今年、カンボジア全土で、すでに 700 人以上の縫製工場労働者が失神していると言う。

《 真相 》

- この工場は中国系の縫製工場であり、すでに10年以上、現地で稼働しており、これまで大きな問題が起きたことはなかった。当工場は、11/16～19をカンボジアの水祭りのため4連休としていた。
- 11/20、工場管理者が連休明けのため、工場内で虫除けスプレーを大量にまき散らしたので、女子工員が気分を悪くする事態が発生した。同時に連休中に故郷に帰ったり、遠出したりして、体調管理が不十分なまま出勤してきた女子工員もいたようである。
- 11/21朝、腹痛や下痢、嘔吐などの体調不良を訴える女子工員がいて、それを見ていた他の女子工員20名ほどが、気分を悪くして連鎖的に倒れ、病院に運ばれた。会社側は工場の操業をやめ、残っていた女子工員を帰宅させた。
- 11/22昼、会社側は、前日の不吉な事件のお祓いをするため、近所から僧侶を招き、全工員を集め、魔除けや霊魂を鎮める祈祷会を催した。僧侶が30分ほど読経していると、そのうち一人の女性が突然立ち上がり、わけのわからないことを言い倒れた。それを見ていた女子工員たちが、また次々と倒れ、病院に運ばれていった。その数は50人を超えたという。
- 11/23、この日もまた、20人ほどの女子工員が失神した。
- 近所に住む老人は私に、「この工場一帯は、ロン・ヌル軍とポル・ポト軍の激戦の地で、当時は死体ごろごろしていた。またその後のポル・ポト時代に虐殺された住民が、この地に大量に埋められている。彼らの霊を鎮めるために、ここに塚が建てられており、村民がいつもそこで祈りを捧げていた。10年ほど前、中国人が来て、塚を壊し、工場を建設した。今、起きている原因不明の女子工員の失神は、塚を壊した祟り(たたり)ではないか」と話してくれた。

《 私見 》

今回の失神事件も、①カンボジア労働者の栄養不足、②カンボジア労働者の自己管理不足、③工場管理者の不注



意、④カンボジア労働者の情緒不安定、などの要因が複雑に絡みあって起きたものであろう。バングラデシュやミャンマーも、①・②・③の状況はほぼ同じであるが、大量集団失神はまったく起きていない。労働者の大量集団失神という事態は、カンボジア固有のものである。つまりカンボジア固有の④の要素が付け加わることによって、生じる現象であり、それはポル・ポト後遺症であると考えることが妥当である。労働組合幹部は、すでに700名も発生している失神者対策を、労働環境の改善にのみ求めるのではなく、より深い洞察による心理的・科学的改善に踏み込む必要があると思う。

4. 故ノルドム・シハヌーク前国王の銅像が完成

10/15の朝に行われた式典のなかで、ノルドム・シハヌーク国王と与党の代表者達が、完成したばかりの故シハヌーク王の銅像に花を捧げた。この銅像は、1年前にこの世を去ったシハヌーク国王のために作られたものだ。独立記念塔の、ちょうど西側に建てられている。

シハヌーク像は、両手をお腹の上で組んでおり、穏やかな像である。手を斜め上に突き出し、民衆を統治する姿勢を顕示している毛沢東像などとは、明らかに違う。これもシハヌーク前国王の人柄を偲ばせるものであろう。なお、私の後方に見えるのが、独立記念塔である。



以上